

【研究ノート】

大学教育としての体育

第 3 報：北星学園大学 正課体育実技「ゴルフ」の授業

佐 渡 清 隆

I. はじめ

大学設置基準の大綱化，簡素化によって授業科目の区分や単位数ならびに必修選択などは大学の学則に定め，大学のカリキュラムの自由化の提唱がされたが多くの問題が生じている。大学の体育はすべての学生に身体運動を通してその活動に参加するように，個人の意図と活動を増進する教育であって，そのねらいは全体的人間として生きるための一環として健康の維持，向上，スポーツへの参加，レジャー時間の活用等の面で学生が自分に適した心身ともに健康な生活スタイルの開発に努めるのを支援することにある。学生が自分自身の生活を健康面での責任をもって方向づける個性的な自己実現の機会をささえる体育，これが大学教育の教育構造の中に位置を占める基礎を獲得する根本的条件であると考えられる。従って現代社会の変貌に対応して体力づくりで終わるのではなく人間の生き方の問題として結びつく体育，生涯学習の一環としてエネルギーの蓄積をめざす体育の方向への検討が必要である。

本学における体育実技のカリキュラムを具体的にどうとるべきかについて考えた時，現状の徹底した自己点検，自己評価，大学体育に対する期待，助言，そして批判を含めた第三者の評価などがあげられる。そこで今回は，まず自己改善の第 1 歩として現状分析と卒業生に対してアンケート調査を行ったのでその結果を報告する。

II. 調査および方法

① 1995年度の北星学園大学(以下本学)「ゴルフ」授業(表1)を履習した学生,男子(11名),女子(13名)計24名について,ゴルフ授業に関しての意識調査(15項目)を実施した。

② 体育演習の「ゴルフ」履習者に対して,男子5番アイアン,女子

表1 体育実技「ゴルフ授業」プログラム(授業時間90分)

第1週	オリエンテーション (VTR 使用) スイングの原理・エチケット・マナー・危険防止等
第2週 ┆ 第4週	グリップ スタンス アドレス パッティング (マット使用) 7番アイアンでスイング作り (穴空きボール使用)
第5週 ┆ 第7週	スイングづくり (テンポとリズム・スイングプレーン) アイアン7番・5番使用
第8週 ┆ 第9週	スイングづくり (ウッド1番・3番使用)
第10週 ┆ 第11週	スイングづくり (アプローチ 9番・ピッチング使用) パッティング
第12週	ゲームの進め方 (ショートホール)
夏 期 休 暇 中	2泊3日の合宿 スコアカードへの記入の仕方, ルール, ラウンドの進め方, コンペティション

注1 第1週～第2週は教室, 体育館で行う。

注2 第3週～第12週はゴルフ練習場 縦(30m)横(27m)ネットの高さ(15m)グリーン, パンカーあり

注3 体育演習の後期7週間は, 主としてゴルフ練習上で行い修正練習とする (VTRの撮影)

注4 評価 主としてコンペティションによる。目標1ラウンド男子(140), 女子(170)

注5 使用した用具 キャディバック33組(ハーフ, 左手5組含む) 穴空きボール約200個 練習ボール約1,200個

7番アイアンで三菱マイコンゴルフ練習器(GL-500)を使用し、男子20名、女子23名計43名に対してヘッドスピードを測定した。また、ヘッドスピードとラウンドのスコア得点との関係について調査した。

③ 本学の1970年度より1994年度までのゴルフ授業の履習者(表2)一般教育学生、男子318名、女子597名、計915名、体育演習学生、男子104名、女子93名、計197名、合計1,112名を対象とし無作為抽出法により一般教育100名、体育演習100名に対して「体育(主としてゴルフ)に関する意識調査(6項目)」を郵送で調査した。回収率は一般教育男子8名、女子18名、計26名(26.0%)、体育演習男子23名、女子18名、計41名(41.0%)で、全体では33.5%である。

表2 一般教育・体育演習年度別履習数

年度	性 別		一 般 教 育		体 育 演 習		
	男	女	男	女	男	女	
70'~73'	57	132			体育演習1982年より実施体育カード、データ不明のため		189
74'~78'	51	149					200
79'~83'	55	65					120
84'~88'	65	106	88	45			304
89'~93'	90	145	16	48			299
計	318	597	104	93			1,112

III. 結果および考察

① ゴルフ授業を履習した動機(図1-1)については、興味があったから、男子36.3%、女子30.7%、将来やるときに役立つと思うから、男子18.1%、女子23.0%、正しい技術や知識を身につけたいから、男子18.1%、女子30.7%で男女共未経験者がゴルフに興味をもち、将来役立つと感じる学生が多かった。授業を受けた感想(図1-2)は、楽しかった(やや楽しかった含む)が殆んどであった。授業内容に対する満足度(図1-3)も満足した(やや満足した含む)が大多数であった。授業についての説明、指導(図1-4-5)においても学生はおおむね肯定的に受け止めているように思われる。授業で使用した施設、用具(図1-6-7)については

85%~90%が満足しているが、クラブが古く汚れている、グリーンの整備不足等の声が小数あった。授業期間、上達度(図1-7-8)については、現状に満足したものが多かったが、技術の上達では、あまり上達しなかったものの回答も小数あった。技術的に難しい点(図1-9-10)については、「ある」男子54.5%、女子53.8%、「ない」男子45.4%、女子46.1%、数字が示すようにゴルフの難しさを感じているようでスイング、距離感、方向性等、女子ではボールがクラブに当たらないという課題があげられる。もっと教えて欲しい内容(図1-11)については「ある」男子36.3%、女子30.7%であった。受講後のゴルフに対して関心(図1-12)については男女共、大変持つようになった(やや持つようになった含む)は90%以上で、大多数の学生はゴルフに関心をもち、より深めていこうとしている。将来、本格的にゴルフを始めようという意志(図1-13)については、始めようと思う、男子54.5%、女子46.1%、楽しい、面白い、将来役に立つから等の回答があり、思わないのは極めて少く、金がかかるの理由があげられている。分からない回答も小数あった。

夏期休暇中2泊3日の合宿(図1-14)については、男子は大変満足した(やや満足した含む)45.4%、やや不満45.4%で両極端であった。不

ゴルフ授業に関する意識調査

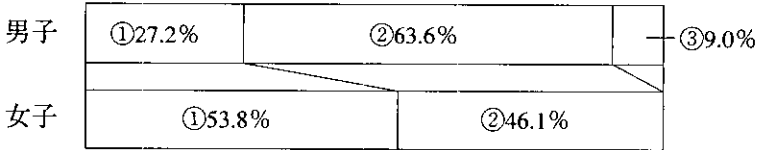
動機について(図1-1)

- ① 経験はないか興味があったから
- ② 将来やるときに役立つと思うから
- ③ 正しい技術や知識を身につけたいから
- ④ 両親がゴルフをしているから
- ⑤ その他

男子	①36.3%	②18.1%	③18.1%	④ 9.0%	⑤18.1%
女子	①30.7%	②23.0%	③30.7%	④ 7.6%	⑤ 7.6%

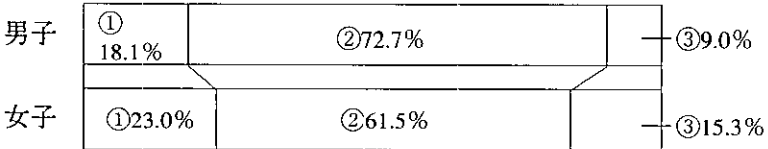
授業を受けて楽しかったですか (図 1-2)

- ① 大変楽しかった ② やや楽しかった ③ あまり楽しくなかった
④ 全然楽しくなかった



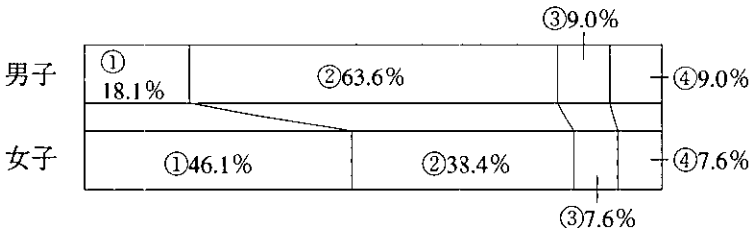
授業内容に満足しましたか (図 1-3)

- ① 大変満足した ② やや満足した ③ やや不満である
④ 大変不満である



授業の指導方法は適切でしたか (図 1-4)

- ① 大変適切であった ② やや適切であった
③ あまり適切でなかった ④ 全然適切でなかった



説明の仕方は適切でしたか (図 1-5)

- ① 大変適切であった ② やや適切であった
 ③ あまり適切でなかった ④ 全然適切でなかった

男子	①27.2%	②63.6%	④9.0%
女子	①53.8%	②30.7%	③15.3%

授業で使用したゴルフ関係の施設はどうでしたか (図 1-6)

- ① 大変満足した ② やや満足した ③ やや不満である
 ④ 大変不満である

男子	②45.4%	③45.4%	④9.0%
女子	②46.1%	③46.1%	④7.6%

ゴルフで使用したゴルフ用具の質や量は どうでしたか (図 1-7)

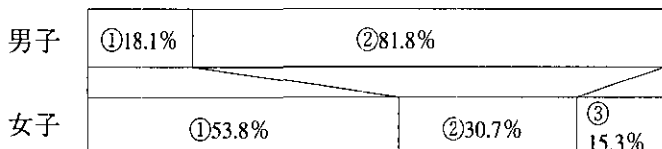
- ① 大変満足した ② やや満足した ③ やや不満である
 ④ 大変不満である

男子	①27.2%	②45.4%	③27.2%
女子	②69.2%	③30.7%	

大学教育としての体育

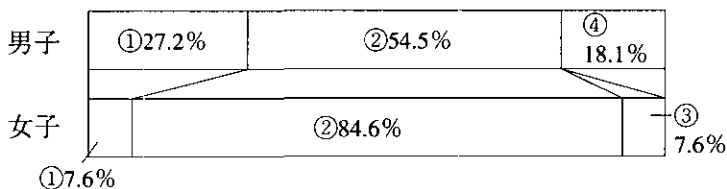
授業期間はどうでしたか (図 1-8)

- ① ちょうどよい ② もっと長いほうがよい
③ もっと短いほうがよい



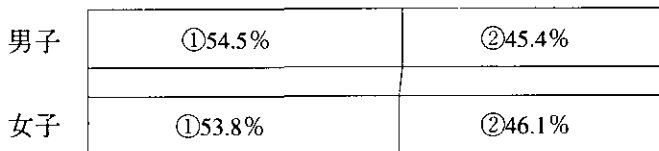
授業を受けてゴルフの技術が上達しましたか (図 1-9)

- ① 大変上達した ② やや上達した ③ あまり上達しなかった
④ 全然上達しなかった



技術的に難しい点がありましたか (図 1-10)

- ① ある ② ない



ゴルフ授業でもっと教えて欲しい内容がありましたか (図 1-11)

- ① ある ② ない

男子	①36.3%	②63.6%	
女子	①30.7%	②61.5%	無回答 7.6%

授業を受けてゴルフに関心を持つようになりましたか (図 1-12)

- ① 大変持つようになった ② やや持つようになった
③ あまり持たない ④ 全然持たない

男子	①63.6%	②27.2%	④9.0%
女子	①61.5%	②38.4%	

これからまた将来、本来的にゴルフを始めようと思いますか (図 1-13)

- ① 思う ② 思わない ③ 分からない

男子	①54.5%	②9.0%	③36.3%
女子	①46.1%	③53.8%	

合宿授業はどうでしたか (図 1-14)

- ① 大変満足した ② やや満足した ③ やや不満 ④ 大変不満

男子	①45.4%	②9.0%	③45.4%
女子	①53.8%		②46.1%

合宿の期間はどうか (図 1-15)

- ① 丁度よい ② もっと長い方がよい ③ もっと短い方がよい

男子	①63.6%	②9.0%	③27.2%
女子	①92.3%		③7.6%

満の理由は時期の問題と宿泊の部屋割、設備について不満をあげている。女子は大変満足した(やや満足した含む)が大多数でラウンドはつらかったが楽しかった、マナーを学べたのがよかった等の回答が多かった。

以上の結果から現在実施している本学のゴルフ授業に対して履習学生はおおむね満足していると思われる。また授業を受けてゴルフに対する関心も深まり、将来本格的に実施したいと考えるものも少なくなかった。これらのことからゴルフを生涯スポーツとして実施する動機づけとしてゴルフ授業が有効であると思われる。しかしながら施設、用具整備、技術面の指導について工夫、改善される必要があると思われる。またマスコミなどで取り上げているゴルフ場の乱開発、農業使用の問題等を授業の中でどのような教えたらよいかを検討する必要がある。

② クラブヘッドで打たれてボールが飛び出すには、いろいろ条件がからみあっている。河村龍馬によれば高速度写真からインパクトに入る瞬間のヘッドスピードや飛び出す初速を推定できるし、ヘッドスピード

とボールの初速とは相関関係にあるとされている。(ジャストミート時)。ボールの初速がヘッドスピードの1.4倍以上出ているればジャストミート, 1.2倍以下ではミスショットといわれ, そのショットの成否はインパクトで決められる。したがってボールがクラブフェースを離れた瞬間にそのボールの運命が決定される。

いろいろな条件, 要素がからみあう中で今回は三菱 GOLF TRAINER (GL-500) で男子は5番アイアン, 女子は7番アイアンを使ってヘッドスピード (m/s) とラウンドにおけるスコア得点との関係についてみてみた。表3から, 男子平均スコア得点144.2, ヘッドスピード平均値37.0(m/s), $R = -.053$, 女子平均スコア得点194.6, ヘッドスピード平均値23.9(m/s), $R = -.187$, 全体で $R = -.535$ で1%水準で有意な関係があった。また参考資料 GOLF TRAINER から平均値をみれば男子はほぼ近い値を示したが, 女子においては指導面に工夫が必要と思われる。フォロースルーの関係では打ち出されるボールに重大な関係があり, ナイスショットの有力な方法の一つであることが示唆されたが, 今後いろいろな角度で検討しなければならない。

③ 今回, 本学に於いてゴルフ授業(表1参照)を1970年度より1994年度までの履習者, 一般教育学生915名, 体育演習学生197名, 計1,112名から無作為抽出法で200名を対象に体育「主としてゴルフ」についての意識調査を郵送で行ったが, 回収率が低い関係から一般教育学生と体育演習学生を併せて各項目について考察する。

年齢構成(表4)は本学のゴルフ授業の日の浅いこともあり, 21歳~30歳に偏っている。卒業後の運動・スポーツ実施頻度(図2)は男子は月1~3回(32.0%), 週1回以上(24.0%), 週1回以内(20.0%)の順になっている。女子は週1回以上(56.0%)が多い。また体力について(図3)は男子は, 普通(48.3%), 自信がある(やや自信がある含む)(35.4%), 自信がない(やや自信がない含む)(16.1%), 女子では普通(52.7%), 自信がある(やや自信がある含む)(24.9%), 自信がない(やや自信がない含む)(22.2%), 全体では普通(50.7%), 自信がある(やや自信がある含む)(29.8%), 自信がない(やや自信がない含む)(19.3%)で卒業後にゴルフ, または何らかの運動・スポーツを行っているのではないかと推測される。ゴルフを卒業後行う機会がありましたか(図4),

表3 ヘッドスピード・スコア得点 (体育演習)

男 子		女 子	
ヘッドスピード(m/s)	スコア得点	ヘッドスピード(m/s)	スコア得点
① 25.1	110	① 21.6	200
② 35.1	129	② 31.4	220
③ 37.4	131	③ 36.3	144
④ 37.4	138	④ 22.2	171
⑤ 54.2	135	⑤ 20.0	248
⑥ 38.8	135	⑥ 39.4	180
⑦ 27.7	147	⑦ 29.3	218
⑧ 52.8	154	⑧ 29.7	180
⑨ 38.0	149	⑨ 21.9	122
⑩ 34.5	183	⑩ 18.7	170
⑪ 40.2	141	⑪ 19.0	206
⑫ 30.4	153	⑫ 19.5	183
⑬ 33.5	139	⑬ 18.0	201
⑭ 36.3	189	⑭ 19.3	252
⑮ 40.3	129	⑮ 19.1	152
⑯ 39.6	133	⑯ 25.9	162
⑰ 40.6	144	⑰ 18.8	185
⑱ 32.4	165	⑱ 25.7	156
⑲ 29.6	168	⑲ 22.1	225
⑳ 37.1	112	㉑ 18.3	261
		㉒ 32.8	228
		㉓ 20.9	207
		㉔ 20.9	207
平均値 <u>37.0</u>	平均値 <u>144.2</u>	平均値 <u>23.9</u>	平均値 <u>194.6</u>
R = -.053		R = -.187	

R = -.535 (1%水準で有意差あり)

参考資料…… GOLF TRAINER

ヘッドスピード(m/s)

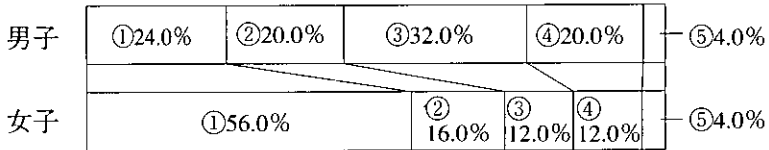
	プロ	アマ 飛ばし屋	アマ	女性の 飛ばし屋	女性
5 番アイアン	43	39	36	32	29
7 番アイアン	39	36	32	29	25

表 4 年 齡 構 成

		21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳
男子	一般	3	4	1	0
	演習	23	0	0	0
女子	一般	7	8	2	1
	演習	18	0	0	0

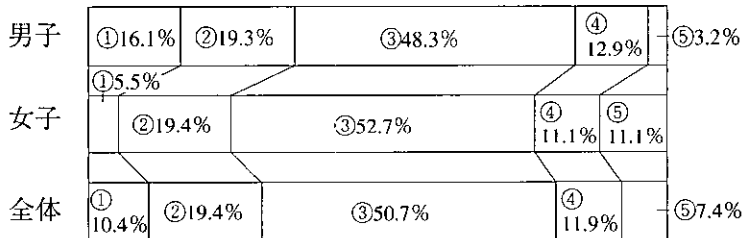
卒業後の運動・スポーツの実施頻度 (図 2)

- ① 週 1 回以上 ② 週 1 回以内 ③ 月 1 ～ 3 回
④ 年 1 ～ 3 回 ⑤ その他



体力について (図 3)

- 体力：① 自信がある ② やや自信がある ③ 普通
④ やや自信がない ⑤ 自信がない



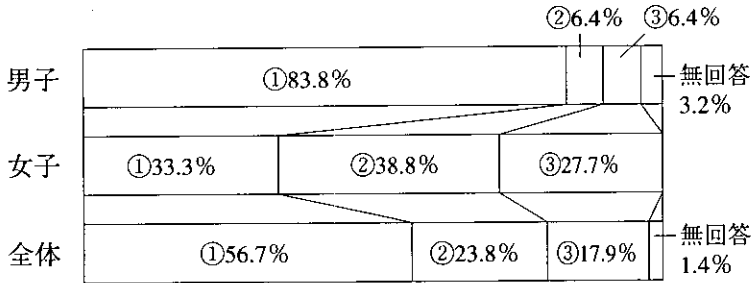
について男子、あった(コースにも出た)(83.8%),あった(打ち放しのみ)(6.4%),全くなかった(6.4%),女子は、あった(コースにも出た)(33.3%),あった(打ち放しのみ)(38.8%),全くなかった(27.7%)で女性に対する世論の社会生活の考え方、結婚子育て等で機会を失っている様相が伺える。ゴルフの長所、短所(図5)については、気分転換、楽しい、年齢に関係なくプレーできる、ストレス解消、長く歩くことができる等を長所としている。また短所ではお金がかかる、仲間がいないとプレーができない等をあげている。運動・スポーツに対する意識について各項目の特徴のみをあげてみると、スポーツや運動は好きである(図6-1)については男子そう思う(ややそう思う含む)(93.5%),女子そう思う(ややそう思う含む)(77.7%),スポーツや運動はうまくできる方である(図6-2),については男子そう思う(ややそう思う含む)(74.1%),女子そう思う(ややそう思う含む)(36.0%)運動に対して積極性や自信を持っていないと思われる。精神を安定させる効用があるか(図6-3),については、そう思う(ややそう思う含む)男子61.2%,女子86.0%で女子の方が効用があるが男子を上廻っている。社会性を向上させる効用に(図6-4)については男女共70%以上が思っている。また体力を向上させる効用に(図6-5)については男女共70%以上が思っており男子は大多数であった。規範・礼儀を身に付ける効用(図6-6)についても70%以上男女共、思っていると回答している。各項目とも体育運動の効果として認めていると思われる。大学体育の授業について意見と感想(図6-7)については必修ではなく、自由選択にしているいろいろなスポーツを体験させるべき、という意見が多く、男子ではゴルフ授業でマナー・ルールなどの基礎的なことが役立ったという感想が多く、女子では楽しんで体を動かせる種目を中心に行うべきだという意見をあげている。

調査の結果から、授業内容、指導方法、新体育館早期の建設等に、今後十分な見直しを行うと共に、身体的、精神的にも成熟期にある大学生時代に、積極的に体育・スポーツに親しめる習慣性を養い、心身ともに健康で豊かな生活を求めている体育実践の方向と学生生活や卒業後の生活に潤いを与える生活向上の基礎になるように進めていかなければならないと示唆された。

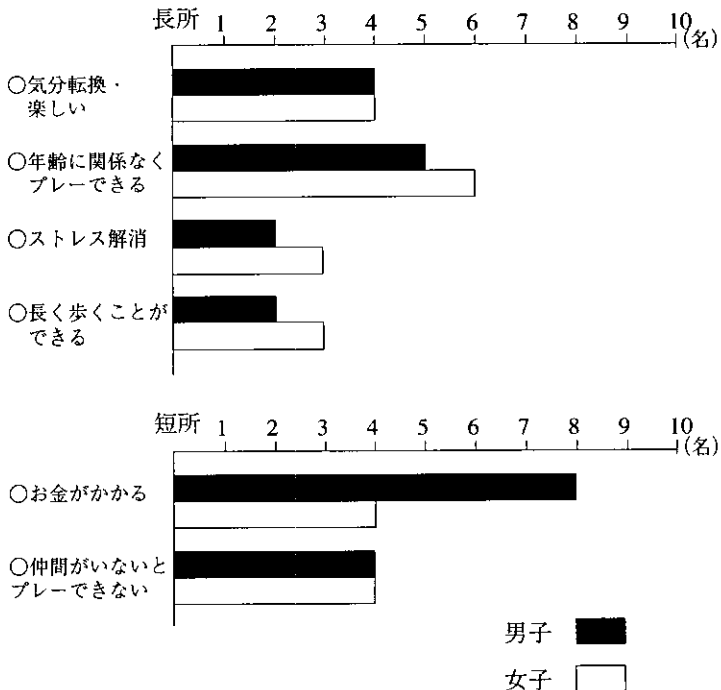
ゴルフについて (図 4)

大学卒業後、ゴルフを行う機会がありましたか

- ① あった(コースにも出た) ② あった(打ち放しのみ)
③ 全くなかった



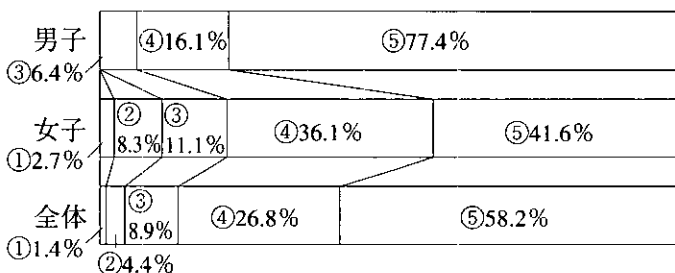
ゴルフの長所・短所 記述回答 (複数含む) (図 5)



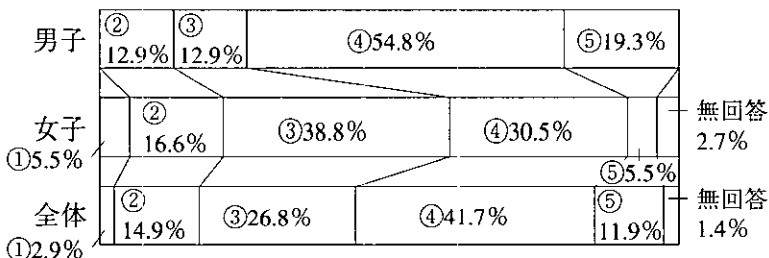
運動・スポーツに対する意識について

- ① 全く思わない ② あまり思わない ③ どちらとも言えない
④ ややそう思う ⑤ そう思う

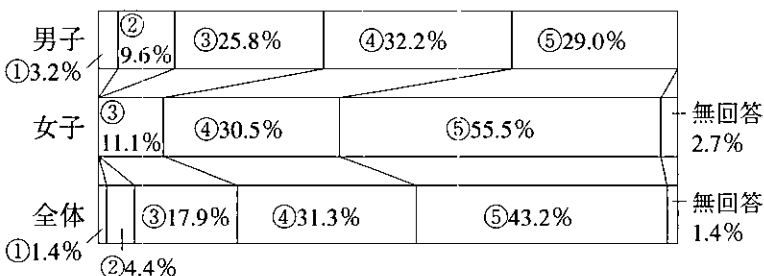
1 スポーツや運動は好きである (図 6-1)



2 スポーツや運動はうまくできる方である (図 6-2)



3 スポーツや運動には精神を安定させる効用がある (図 6-3)



4 スポーツや運動には社会性を向上させる効用がある (図 6-4)

男子	③29.0%		④41.9%	⑤29.0%
女子	②8.3%	③13.8%	④33.3%	⑤44.4%
全体	③20.8%		④37.3%	⑤37.3%
②4.4%				

5 スポーツや運動には体力を向上させる効用がある (図 6-5)

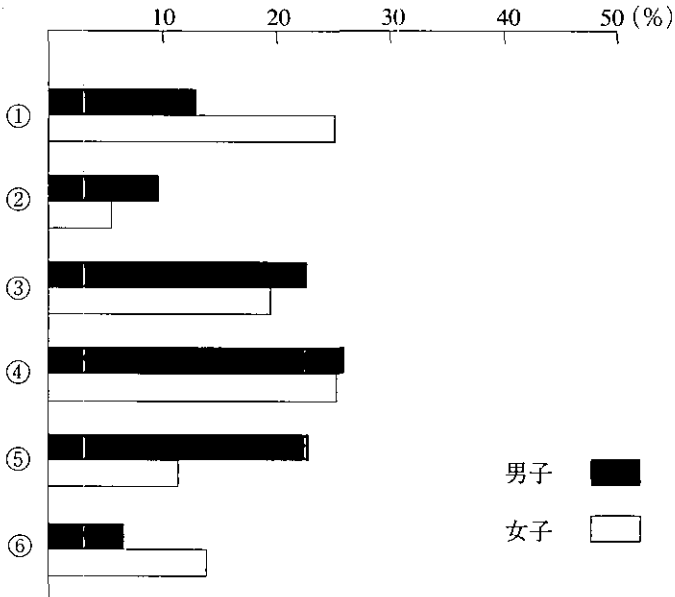
男子	④32.2%		⑤61.2%
②3.2%	③3.2%		
女子	③19.4%	④30.5%	⑤47.2%
②2.7%			
全体	③11.9%	④31.3%	⑤53.7%
②2.9%			

6 スポーツや運動には規範・礼儀を身につける効用がある (図 6-6)

男子	②6.4%	③12.9%	④38.7%	⑤38.7%
①3.2%				
女子	③16.6%		④38.8%	⑤36.1%
①5.5%				
②2.7%				
全体	③14.9%		④38.8%	⑤37.3%
①4.4%				
②4.4%				

体育の授業についての意見感想（記述回答）（図7）

- ① 楽しんで体を動かせる種目を中心に行うべき
- ② 基礎体力の養成（あるいは体力維持）に努めるべき
- ③ 社会人になってからも継続できるもの
- ④ 必修ではなく、自由選択でいろいろなスポーツを体験できるようにすべき
- ⑤ ゴルフ授業がマナー・ルールなどの基礎的なことに役立った
- ⑥ その他



IV. むすび

1. 1995年度のゴルフ授業履習者に対する意識調査の結果は、授業に関しては、満足した学生が多く、ゴルフ授業が将来のスポーツ実施への動機づけに有効であると思われる。
2. クラブヘッドスピードとラウンドにおけるスコア得点に関して有意差があり、指導面（技術）に多くの示唆があたえられた。
3. ゴルフ授業履習者の卒業生に対する調査から、学習成果を自分の

ものとして身体化し実践していく能力や、態度を中心にした生涯体育
プランニングに向けた授業内容に改善すべき必要性が示唆された。

【参考資料】

河村龍馬 ゴルフの科学 光文社

大沢啓蔵 ゴルフの科学 日本ゴルフ学会 Vol.5 No.1 1991

Physical Education as College Education Third Report: On the Lessons of “Golf” in the Regular Curriculum of Physical Education

Kiyotaka SADO

Due to the revision of college chartering standards, the previous restrictions on college curricula have been liberalized. This causes various problems such as the need to determine how many credits should be included in the physical education curriculum and the issue of whether physical education subjects should be required or simply offered as electives. Under such circumstances it is necessary for us to direct our primary concern not to simply developing physical strength for the sake of meeting the social demands of modern society, but rather to focus on fostering physical education which can help students develop an appreciation for the significance of human life and the accumulation of human energy as a link to lifelong learning. Here we report the results of our survey about the students' response to “the lessons of golf” in the regular curriculum of physical education at the Hokusei Gakuen University.